

みんなの広場

男女協働参画『子育て講座Ⅰ』

自分の心に寄り添う時間を過ごす

ストレスケアのための『子育て講座Ⅰ』が市民センターであり、ストレスカウンセラー、ソーシャルアロマセラピストの上中志野さんが、『コラージュ』のワークショップをしました。コラージュとは雑誌や色用紙などを切り抜いて、台紙にのりで貼りつけて再構成する芸術表現で、参加者は「自分の思いが表現できて楽しかった」と話していました。



↑自分の思いを表現した作品を持って、講師の上中さん（前列右から3人目）を囲む参加者

佐賀牛を使った学校給食を提供

佐賀牛おいしいね。また食べたい

市内の小・中・義務教育学校などで、佐賀牛を使った学校給食が提供されました。これは、県の『食べて応援！佐賀牛学校給食提供事業』を活用し、コロナ禍の中で販売が落ち込む肉用牛農家を支援しようと実施されたものです。この日、子どもたちは佐賀牛カレーを堪能。来年1月と3月にも佐賀牛を使った給食がふるまわれる予定です。



↑佐賀牛カレーを味わう立花小学校6年1組の児童

いきいき百歳体操ステップアップ講座

自分らしくいきいき生きよう

いきいき百歳体操ステップアップ講座が市民センターであり、医療法人幸善会前田病院理学療法士の齋藤裕樹さんと、武雄市レクリエーション協会会長の森恵美さんが健康寿命を延ばすための介護予防について講演をしました。参加者は体を動かしながら、心と体の元気づくりを学び、笑顔でいきいきと過ごすことの大切さを実感していました。



↑笑いを交えながら、参加者と一緒に体を動かし講演をする森さん（中央）

佐賀県原子力防災訓練

いざというときの備え

九州電力株式会社玄海原子力発電所（玄海町）の重大事故を想定した県原子力防災訓練が実施され、伊万里・牧島地区の住民が参加しました。各コミュニティセンターに集合した約50人の参加者は、避難を想定して有田町にバスで移動し、避難の手順を確認したり、放射線の基礎知識について学んだりして、防災の備えを体験しました。



↑新型コロナウイルス感染症のような感染症が流行したときを想定し、乗車前に体温を測定

火災初動対応競技大会

安全・確実・迅速に

伊万里消防署で火災初動対応競技大会がありました。市防火協会などに加入する市内の7事業所10チームが参加し、119番通報や要救助者の救出などの迅速さや確実さを競いました。そのほか、市内保育園などへの訓練用水消火器および的の配付式を開催。消火技術の向上と幼少期から防火意識を高めるために、今年度から隔年で配付されます。



優勝した名村Aチームが要救助者を救出する様子



↑訓練用水消火器および的を受け取った保育園などの皆さん

環境啓発ステッカーを寄贈

無駄をモオ〜っと減らそう

環境保全活動を行う『クリーンの環』が、手作りの環境啓発ステッカー50枚を市に寄贈しました。これは、電気の消し忘れ防止といった、一人一人が無理なくできる環境保全の行動に関心を持ってもらおうと寄贈されたものです。市役所を訪れた渡邊きよめ代表は、「日々の行動を見つめ直すきっかけになってほしいです」と話しました。



↑環境啓発ステッカーを寄贈したクリーンの環の皆さん

地域連携型佐賀大学公開講座『読書会』

本を語り合う楽しさ

佐賀大学と連携した『読書会』の公開講座が市民図書館で開催され、佐賀大学教育学部准教授の竜田徹^{たつた}さんが、1冊の本をきっかけに語り合う楽しさについて解説しました。その後、グループに分かれて読書会を体験し、同じ本でも読む人によって読み方や感じ方が違うことを発見しました。講義はインターネットでも配信されました。



読書会の楽しさを熱心に解説する竜田さん



↑演習で1冊の本について語り合う参加者たち

イノピカコンサート in 川内野 2020

田園に響き渡る美しい音色と歌声

イノピカコンサート in 川内野 2020 が東山代町川内野区であり、荒木あつ子さんがオカリナやケーナを演奏し、和嶋静代さんが歌声を披露しました。これは、佐賀大学の学生と連携した地域おこし事業の一環で開催されたもので、田んぼにイルミネーションが輝く中、観客は響き渡る音色と美声に聞き入り、幻想的な世界に浸っていました。



↑イルミネーションの中、響き渡るオカリナの音色